

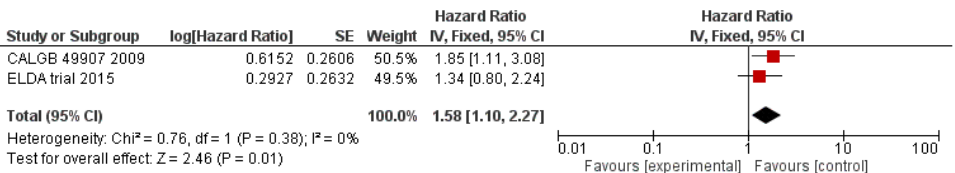
【4-7 評価シート エビデンス総体】

診療ガイドライン	乳癌診療ガイドライン 薬物療法
対象	高齢者かつ原発性乳癌に対する術後薬物療法
介入	標準的化学療法(CMF, AC)
対照	標準的治療以外の化学療法

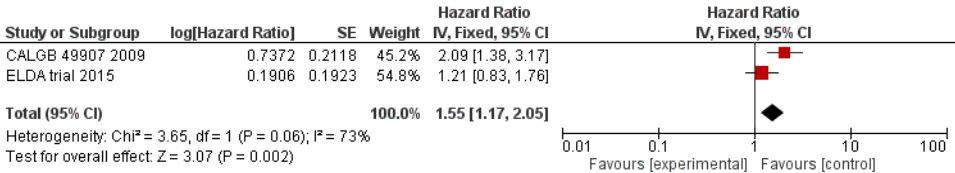
エビデンスの強さはRCTは“強(A)”からスタート、観察研究は弱(C)からスタート
* 各ドメインは“高(-2)”、“中/疑い(-1)”、“低(0)”の3段階
** エビデンスの強さは“強(A)”、“中(B)”、“弱(C)”、“非常に弱(D)”の4段階
*** 重要性はアウトカムの重要性(1~9)

エビデンス総体								リスク人数(アウトカム率)											
アウトカム	研究デザイン/研究数	バイアスリスク*	非一貫性*	不精確*	非直接性*	その他(出版バイアスなど)*	上昇要因(観察研究)*	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標(種類)	効果指標統合値	信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
全生存期間の改善	RCT/2	0	0	0	0	0	NA	478	50	10.5	454	73	16.1	HR	1.58	1.10-2.27	強(A)	9	
無病生存期間の改善	RCT/2	0	0	0	0	0	NA	478	85	17.8	454	119	26.2	HR	1.55	1.17-2.05	強(A)	7	
QOL	RCT/1	0	0	0	0	0	NA	126	NA	NA	126	NA	NA				弱(C)	6	ELDA trialのみの結果

全生存期間の改善



無病生存期間の改善



QOL

CMF群と比較してDocetaxel群で、嘔気/嘔吐・食欲不振・下痢、ボディイメージ・脱毛・将来展望に関して有意にQOLが低下する。